



巻頭インタビュー

国立大学法人 東京海洋大学 客員准教授

さかなクン

育み、守ろう
興味の芽

魚のことなら何でも知っているさかなクン。「魚が好き!魚の絵を描くことが楽しい!魚のことをもっと知りたい!」という強い興味や好奇心、そしてたくさんの人たちとの“ギョ縁(御縁)”がさかなクンを育てました。世代を超えて愛されるさかなクンの魅力に迫ります。

興味と好奇心から広がる人の輪。

魚にワクワクした少年時代

——さかなクンと「魚」との出会いを教えてください。

自分はずっと絵を描くことが大好きな少年でした。初めはトラックなどの乗り物、その後は水木しげる先生が描く妖怪たちが大好きになりました。小学生の頃友達を描いたタコの絵を見た時に「うわっこんな生き物が本当にいるんだあ」と衝撃を受けたのです。これをきっかけにタコを図鑑で調べ

たり、お魚屋さんにも本物のタコを見に行ったり、海にタコを探しに行くなど、タコに熱中しているうちに、お魚や、海の生き物に興味や関心がどんどん広がっていきました。

なつて、お魚のことをしっかり調べて、絵を描いて、図鑑を作り、みんなにお魚の魅力を伝えることに書きました。

中学校では吹奏楽部に入部しました。「スイソウガクブ!」なんて、大好きなお魚が泳ぐ水槽がたくさんある部活と思ったからです。でも、スイソウ違いでした(笑)。

——トラック、妖怪、魚の共通点はどこにあったのでしょうか?

トラックも、妖怪も、お魚も種類が多いんですね。いろいろな大きさや特徴があつて見ていると本当に心が動かされるんです。中でもお魚は食べることができますので、「うわっ、おいしい!」と感動して、ますます好きになりました。

もともと体格も華奢で、引つ込み思案な性格。両親からは「家にはかりいとモヤシ子になるから外に遊びに行きなさい!」とよく言われていました。

学校では、自分のお魚好きは有名だったので、吹奏楽部の顧問兼理科の先生から「カブトガニの飼育法を教えてください」と相談され、カブトガニのために、先生と吹奏楽部の生き物好きの友達と一緒に海に海水や砂を取りに行きました。水槽の中に海水と砂を入れた後、カブトガニが元気に動きだした時の感動は今でも忘れられません。先生と友達みんなで感動しました!!

▼ さかなクン直筆のイラスト



「好奇心」が自分を突き動かしてくれた

——さかなクンの子どもの頃の夢は、何だったのですか?

小学6年生の卒業アルバムには「東京水産大学 現・東京海洋大学」の先生に

魚好きがもたらしてくれた

たくさんのお出会いと経路

——小学生の頃の興味は、中学・高校と進むにつれ、ほんのり変わることがありますが、どうだったのですか?

高校でも吹奏楽部に入りましたが、練習が終わると、鮮魚店のアルバイトに直行してました。店長がそれは厳しい人です。でも、大きなマクロを5分だけばける腕前で、尊敬していました。失敗も数多くありましたよ。たとえば、アジを水道水で洗ってしまひ、「頭を使え!海の魚を真水で洗うな!」と怒鳴られたことも。そんな経験を通して、お魚をきれいに洗う方法や、お魚の売り方、盛り方、並べ方、お客様へのアドバイスの仕方などを学ぶことができました。



人への感謝の気持ちをいっぱい、 これからも「ギョ縁」を通じて 感動の輪を広げていきたい。

の鮮魚コーナーでのアルバイトや、おすし屋さんでのアルバイトも続きませんでした。「向いていない」と言われて泣いた。

でも、お魚は大事な存在ですし、自分の原点は好きな絵を描くことなので、お魚の絵は描き続けました。

将来的には自分一人ではなく、お魚を研究されている先生方とギョ一緒に、学術的な図鑑を作成して、お魚の魅力をさらに広げていきたいです。

東日本大震災後すぐ、T.Vドラマ「あまちゃん」の舞台岩手県久慈市にも駆けつけていますね。

久慈市の皆様とは、10年近くも親しくさせていただいています。「もぐらんぴあまちなか水族館」の皆様が「さかなクンの講演会」を開催してくださったのがきっかけでした。

震災は街に、人々の心に、大きな爪痕を残してしまいましたが、「どんな過酷な環境下でも海の生き物たちはそれぞれた

魚のたくましさ、 力強さを伝えたくて

小学校などへの出前授業、講演活動を積極的に実施されていると伺いました。ハイ！続けているうちに自分の中でも変化が起きていると感じています。初めは、自分が見たお魚がどれだけ素晴らしいかを伝えるお話が中心でした。でも、回を重ねるたび、自分からの発

「なるほど、さかなクンにとっては、ずつと魚が一番身近で大切なものだったんですね。これまで、挫折を感じたことはないのですか？」

もちろん、たくさんギョございますよ！卒業アルバムに書いた東京水産大学には進学できませんでしたが、熱帯魚店でアルバイトしていた時は、大好きなお魚たちが次々と買われていくたびに悲しい気持ちになっていました。

お魚のそばにいたくて始めたスーパ

これからも

「ギョ縁」を大切に

魚を通しての、さかなクンならではの支援活動でした。

今、大好きなお魚の絵を描いたり、調べたりしながら、毎日が充実しています。家族はもちろん、友達や先生方、そしてお仕事で知り合った皆様、各地の漁師さんやお魚屋さん、市場の皆様など、多くの方々のおかげ様でギョございます。まさに！お魚から広がる人の輪。それに伴って感動の輪も広がりました。お魚から広がる「ギョ縁」には感謝いっぱい

子育てをしている保護者の方や先生方！さかなクンからアドバイスをするとしたら何と伝えたいですか？

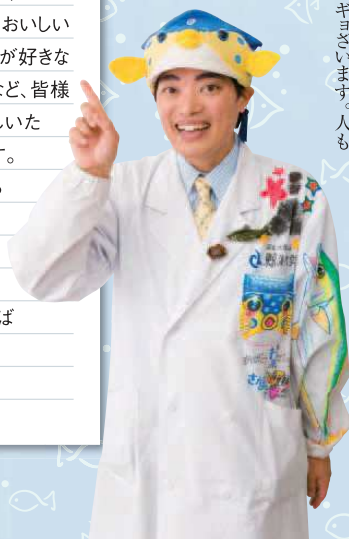
お魚に夢中の自分にやめてしまえ！などという否定的な言葉を周りの人々から投げかけられたことはありませんでした。むしろ、自分を信じ、認められてきました。振り返ってみると、小さな時

ギョギョギョ〜!

自分は昔から、会う人会う人に「楽しそうにやっているね」「このお魚、おいしいから食べてみて!」「そんなに魚が好きなら俺の船に乗っけてやるよ!」など、皆様から貴重なギョ機会をたくさんいただき、感謝、感謝でギョございます。

自分が夢中になれることがあると、そのポジティブなエネルギーが、周りを笑顔にしてくれるのかもしれないね。

「お魚の感動がさらに広がればギョ!ギョ!ハッピー!」と思う、今日このギョろでギョございます。



から母に言われてきた、礼儀や言葉遣い、思いやりの心など、人と人が信頼を深めるための礼節を重んじる教えが、自分にチャンスを広げてくれたような気がします。

そして、自分の経験からしか言えませんが、無我夢中になれる何かを持つことは大事だと思います。生きていく力ですね。だからこそ、これからの時代を作る一人一人の個性を大事にしたいです。

お魚も個性があるから魅力的なのだと思います。

また、ワクワクしながら楽しく学べる機会をたくさん作ってあげていただきたいです。子ども時代だからこそできる体験や感動は盛りだくさんでギョございます！感情を豊かに、人と協力し合ひ、感動の輪を広げていただきたいです。

インタビューを終えて ▶ 担当者より

案内されたさかなクンの仕事部屋はひんやりとしていて、たくさん水槽が並び、まるで小さな水族館に遊びに来たような雰囲気。ハコフグ、トビハゼ、タツノオトシゴなど、大好きな魚たちに囲まれ、本当に楽しそうに話す姿は少年そのものでした。

「好きこそ物の上手なれ」をそのまま体現しているさかなクン。数々の逸話を伺うなかで、2つの大切な力を感じることができました。

まず、何事も積極的に体験する行動力。いろいろな場所に向出ている、持ち前の好奇心と探求心を発揮し、失敗さえも糧にするたくましさがあ

ります。次に、多くの人をひきつける影響力。そのユニークなキャラクターもさることながら、常に誠実で礼儀正しく、感謝の心を忘れない人柄のよさには誰しもが好感を抱くでしょう。

「いくつもの「ギョ縁」に恵まれ、支えられてきた」と振り返るさかなクンですが、子どもの頃にご両親をはじめ、周囲の大人から与えられた言葉や経験が今に生きていることを教えてくれました。それは「絵を描くこと」や「魚との出会い」と同じように、さかなクンの個性を育み、夢を実現させる原動力だったと思われ、改めて子どもを導く大人の役割の重要性を考えさせられました。



Profile [プロフィール]

さかなクン Sakana-kun

国立大学法人 東京海洋大学 客員准教授

小学生時代から魚に興味を持つ。魚に対する深い愛情と豊富な知識から「さかなクン」の愛称で親しまれ、テレビやラジオなどで活躍。千葉県立安房博物館客員研究員や農林水産省お魚大使などを務め、魚の絵のイラストレーターとしても活動。2012年「海洋立国推進功労者」として内閣総理大臣賞を受賞。

オフィシャルサイト
<http://www.sakanakun.com/>

さかなクンのサイン入り本
プレゼント! 3名様

さかなクンの東京湾生きもの図鑑

さかなクン 著 / 工藤孝浩 監修

応募方法などの詳しい情報は裏表紙をご確認ください。